

春日政治国語学関係著述論文目録

春日 和 男 編

凡 例

一、本目録は、故春日政治の著書・論文のうち、特に国語学に関する、または国語学的考察を経た部分を有するものに限つて収録する。

一、全体を単行書・論文・書評の三種目に類別し、単行書をさらに研究書・論文集・随筆集・翻刻・教科書の五項目に、論文をさらに訓点語学関係・文字および文体・万葉集関係訓義・方言・国語学および国語史一般・国語教育および国語問題の六項目にそれぞれ分類して、項目（または種目）別に、発表年月次に順つて排列する。

一、論文における該当項目が二つ以上に亘ると思われるものは、適宜その重点を勘案して、そのいずれか一つに所屬させる。

例「訓点語学関係」と「文字および文体」の両項目に分けた関係諸論文。

凡上小篇（九大国文学会誌11 昭和十一年七月）を「万葉片々」所収の為、「万葉集関係訓義」に入れることなど。

一、同一標題の論文で、数次に亘つて掲載されたものは、その最初の掲載年月の個所に全部を一括する。

例 国語史上の一劃期―文藝伊曾保を中心とした語法―（新潮社日本文学講

座14・18 昭和三年一月・七月）

一、新聞掲載のもの、あるいは放送または講演等で内容の印刷されなかつたもの等は、原則として省略する。ただし、新聞掲載論文でも、論文集・随筆集に所収のものは、この限りでない。

例 陳列余談―九州における仮名資料―（九州帝国大学新聞

昭和九年六月）

一、著書で、再版・別版等出版に関することは省略する。
一、詳細な総目録は目下編集中であるが、なお左の文献を参照せられたい。

文学研究第二十三輯（春日博士還暦記念日本文学特輯 昭和十三年六月三十日）春日政治博士著作年譜

古訓点の研究（昭和三十一年六月）著者訓点関係著書論文目録
万葉第四十五号（昭和三十七年十月）春日政治博士 万葉集

関係論文目録

I 単行書

1 研究書

尋常小学国語読本の語法的研究

修文館

大正七年七月

西大寺本金光明最勝王經古点の国語学的研究 乾坤

岩波書店 昭和十七年十二月

2 論文集

国語叢考

出来島書店 昭和二十二年九月

万葉片々

丁字屋書店 二十三年四月

古訓点の研究

風間書房 三十一・六

3 随筆集

隨筆 青鶴集

岩波書店 昭和十四年五月

4 翻刻

法華経音訓(断簡) 古木版刷

大正八年八月

旧訓十七条憲法 パンフレット

十・四

校訂 法王帝説 油印

十二・三

5 教科書

新体女子文法 上下

修文館 大正五年十一月

女子実用文法 上下

中文館 九・五

新体中等国文法

星野書店 十二・十一

新編女子国文(藤井乙男博士と共編) 十卷

修文館 十三・十一

新修女子文法

修文館 十四・十一

中等日本文典

星野書店 昭和四年十一月

II 論文

・印「万葉片々」所収

* 印「古訓点の研究」所収

：印「随筆青鶴集」

1 訓点語学関係

* 古訓点の調査を中心とした大矢博士の研究

国語と国文学五一

昭和三年七月

* 金光明最勝王経注釈の古点について

日本文学論纂

七・六

。古訓漫談

文学研究2

七・十

* 成実論天長点統翫

国語国文3ノ1

八・一

* 高野山にて観たる古点本一二。付 曾陀多岐考

文学研究7

九・一

* 聖語蔵御本中観論の古点について

京都帝國大学国文学部三十五周年記念論文集

昭和九年十一月

。石山の石から

九大国文学会誌8

十・二

* 国語資料としての訓点の位置

国語国文5ノ2

十・二

* 金光明最勝王経註釈一本の古点について

文学研究14

十・十二

* 西大寺本金光明最勝王経の白点について

以下に掲げる論文で、論文集・随筆集に所収のものについては、
標題の上に次のような符号を冠する。

。印「国語叢考」所収

- 九州大学法文学部十周年記念論文集
- * 聖語蔵御本央掘魔羅經の字音点
文学研究9 十三・六
 - * 古点の況字をめぐる
国語と国文学一七四 十三・十
 - * 斯道文庫蔵本願經四分律
国語国文10ノ1 十五・一
 - * 聖語蔵御本阿毘達磨雜集論の古点について
安藤教授還曆記念論文集 十五・二
 - 古訓語彙小考 文学研究33 十八・十二
 - * 小川本大乘堂珍論天曆点
国語国文14ノ3 十九・三
 - * 金剛般若經讀述嘉祥点
国語学論集(橋本博士還曆記念) 十九・十
 - * 刊後残筆 斯道文庫報1920合併(紀要第一刊行記念特輯)
二十一・四
 - * 初期点法例―聖語蔵点本を資料として―
国語国文21ノ9 二十七・十
 - * 法華經玄賛の古点について
文芸と思想7 二十八・七
 - * 正倉院聖語蔵点本の調査
日本学士院紀要11ノ3 二十八・十二
 - * 語彙雜考 国語学17 二十九・八
 - * 古訓雜記
訓点語と訓点資料4 三十・五
- 九州帝国大学新聞
- * 聖語蔵本菩薩善戒經
国語国文24ノ11(吉沢博士追悼号) 三十・十一
 - 石山寺本金光明最勝王經古点より
国語国文27ノ3 三十三・三
 - 2 文字および文体
仮名の発生に関する考察(松井博士古稀記念論文集)
昭和七年二月
 - * 仮名交り文の起源について
文学研究1 七・三
 - 仮名発達史序説 岩波講座日本文学 八・四
 - 上代文体の研究 上代日本文学講座
：陳列余談―九州の仮名資料― 九・六
 - 片仮名の研究 国語科学講座 九・六
 - 文字及び文体より観たる国文学
昭和九年度文部省主催国語漢文講習会講義、ソフレット 九・七
 - 片仮名の研究 改造社日本文学講座 十・二
 - * 和漢の混淆 国語・国文6ノ10 十一・十
 - 法王帝説樸考
国語と国文学一六一 十二・九
 - 法王帝説統考―般若の証注について―
文学研究21 十二・十一
 - 仮名小考
文学9ノ4 十六・四

仮名の沿革

国語文化講座2 国語概論篇

十六・十一

3 万葉集関係訓義

「佐保」名義私考

佐保会誌

大正七年三月

地名クマ・コマ私考 歴史と地理

九・五

「奈保」名義私考 大和考古学会会報

九・十一

地名より観たる大和 同 右

十・二

・万葉集の肥人について

奈良文化5

十四・五

・認字の和訓についての疑問

同 右12

昭和二年十月

認字和訓再考

同 右16

五・五

・万葉集の訓義と古経卷の施点

万葉学論叢

六・三

・几上小篇 九大国文学会誌11

「簀女」の訓

十一・七

万葉雜記

十七・十

取与呂布私考

西南学院大学文学論集1ノ1

三十・二

万葉集と古訓点

万葉集大成20補遺

三十・九

・「毛無乃岳」の訓 万葉17

三十・十

4 方言

・方言聯想一二 奈良文化15

昭和三年十一月

・言道と方言 能古2ノ8

五・八

九州方言講座の後に 放送講演集

六・五

・甌島に遺れるマラスルとメーラスル

九大国文学2

六・十一

小学方言講義より 文学研究4

八・三

源氏物語の俗訳本 文芸と思想18

三十四・十一

5 国語学および国語史一般(上記以外のもの)

曲譜をつける歌詞につきて

佐保会誌

大正六年三月

女ことば 同 右

六・六

幼児の言違へ 同 右

八・五

言語から見た婦人 家事研究

九・十一

鎌倉時代の武士詞 歴史と地理

十・五

・奈良朝人の擬声語 奈良文化4

十三・六

桃山時代の口語に就いて

福岡県国語漢文学会講演パンフレット

昭和二年十一月

国語史上の一劃期―文禄伊曾保を中心とした語法―

新潮社日本文学講座14・18

昭和三年一月・七月

国語史 文献書院国文学講座2

三・二

・敬讓助動詞マラスルについて

国語国文の研究27

三・十二

・マイルスといふ語

九大国文学1

七・九

。狂言詞覚書

九大国文学会会誌12

十二・三

日本の敬讓語について

日本語学振興委員会研究報告3

十三・二

一八五〇年和訳の馬太伝

文学研究36

二十三・三

聖書和訳の一資料 西南学院論集1

契沖の語学

語文3

二十六・五

国語の母音同化 語文研究4・5

6 国語教育および国語問題

国語瑣談 一、二、三、四、五

信濃教育

大正五年一・二・三月
大正六年十月 大正七年一月

。手だてと目あて

かながきのすゝめ

かながきの読みにくいといふ人に

母と子

十・十二
十二・五

。国語問題展望

国語国文8ノ10

(山本有三著「ふりがな廃止論とその批判」十三・十二 再掲)

昭和十三年十月

Ⅲ 書評

佐藤富三郎氏「国語の研究」を讀みて

奈良県教育

大正六年三月

山田孝雄博士「国語の中における漢語の研究」を讀む

国語と国文学一九七

昭和十五年九月

「訓点資料と訓点語の研究」を讀む

国語学11

二十七・十二

(遠藤嘉基著「訓点資料と訓点語の研究」改訂版 二十八・十

一 再掲)

「古点本の国語学的研究(訳文篇)」を讀んで

国語学38

三十四・九